



独立行政法人国立病院機構

東京医療センターだより

National Hospital Organization Tokyo Medical Center 第98号

発行日 令和6年3月
発行人 新木 一弘
〒152-8902
東京都目黒区東が丘
2-5-1
電話 03-3411-0111
<https://tokyo-mc.hosp.go.jp>

基本理念 東京医療センターは患者の皆様とともに健康を考える医療を実践します。



診療科紹介 ～泌尿器科～

泌尿器科科長 門間 哲雄

泌尿器科では主に排尿に関する異常を扱いますが、その領域は、悪性腫瘍、尿路結石症、尿路性器感染症、前立腺肥大症、過活動膀胱、尿失禁、高血圧や肥満を引き起こす副腎腫瘍、神経因性膀胱など多岐にわたります。

東京医療センターは地域がん診療連携拠点病院であり、当科は特になが治療に注力しています。その特徴のうち、いくつかを挙げてみます。

1. **早期前立腺癌の患者さんが多い**：前立腺癌は、男性の悪性腫瘍症例数の中で最も多いがんではありますが、比較的早期症例が多く手術または放射線治療により高い根治率が期待できます。手術については、昨年に2台目のロボット（ダヴィンチXi）を導入し待機期間が短縮できています。また、放射線治療については外部照射（IMRT、定位照射）だけでなく、小線源治療による高線量治療を実施しておりその症例数は4,500を超え全国で最多となっています。

2. **手術症例数が多い**：手術が多いことは治療経験が豊富であることを意味しますが、そのために治療までの期間が長くなることは許されません。当科では平日なら毎日手術可能であり、患者さんの不安や痛みなどにはなるべく早く対応するように心がけています。

3. **多様な化学療法を適切に実施している**：従来の抗がん剤治療に加えて、最近では分子標的薬、免疫チェック阻害薬、PARP阻害薬など新しい薬剤が使用可能となっています。その選択が困難な時には、臨床腫瘍科とも相談しながら適正な治療が行えるように努めており、また、適応のある患者さんには遺伝子検査を行い、治療効果の高い薬物治療をお勧めすることがあります。



東京医療センターだよりは
QRコードからもご覧になれます



最近の医療は大変複雑化しており、ますますチームワークが重要となってきています。患者さんの診療は主治医が中心となりますが、当科ではスタッフ6名とレジデント4名が一丸となって(写真参照)、安全で質の高い医療を患者の皆様を提供することを目指しております。また、このような医療を実践するため、地域の医療機関との連携も重視しております。当院は急

性期病院であり、地域の医療機関からご紹介いただく患者さんの治療を積極的に行っていますが、急性期治療(手術など入院を必要とする治療)が済んで症状が落ち着かれたら、かかりつけ医での継続治療をお願いしています。

何かお悩みのことで我々にできることであれば是非お手伝いをさせていただきます。



診療科紹介 ～呼吸器外科～

呼吸器外科科長 小山 孝彦

呼吸器外科は2023年4月から小山孝彦(科長 平成9年卒)、福富寿典(平成16年卒)、大竹宗太郎(平成22年卒)の3人体制となりました。全員、呼吸器外科専門医を取得しており、質の高い充実した医療の提供

が可能です。手術は胸腔鏡を用いた低侵襲手術から開胸による拡大手術まで、肺癌をはじめ、縦隔腫瘍、転移性肺腫瘍、気胸、膿胸など、あらゆる呼吸器外科疾患に対応しています。2023年7月からは肺癌および縦

Da Vinci Xiを使用した肺癌手術



コンソールでモニターをみながらロボットを操作します(左)。
助手2名と看護師、麻酔科医、臨床工学技士など多くのスタッフ、チームによって手術を行っております。

隔腫瘍に対して手術支援ロボット（Da Vinci）を用いた手術を導入しました。ロボット支援手術では、3D視野と多関節を備えた鉗子により、精度の高い手術が可能となるだけでなく、創部にかかる負担が軽減されることで、胸腔鏡手術と比較しても、疼痛が軽減され回復が早く、入院期間の短縮が期待できます。当院の患者さんは高齢者の占める割合が高く、多数の併存疾患を有していることも少なくありません。より低侵襲で安全な手術が求められており、多くの患者さんのニーズにこたえ、精神的、肉体的苦痛を軽減できるよう日々努力しております。

当院は地域がん診療連携拠点病院かつ総合病院であり、がん治療だけでなく、多くの疾患への対応が可能です。診療科間の連携体制が充実していることも利点で、肺癌治療に関しては呼吸器内科、放射線治療科・診断科、病理診断部、がんゲノム医療センターが密に連携し、最新の集学的治療を遅滞なく受けて頂ける環境です。加えて併存疾患の治療や手術合併症などへの

外来表（2024年2月現在）

	月	火	水	木	金
午前	小山	手術	大竹	小山	手術
午後		手術		大竹	福富

対応も万全で、ここ数年の手術関連死亡はありません。手術件数は例年120件程度で、うち肺癌が70件程度です。昨年度は全体で114件、肺癌が69件でした。コロナ禍の影響を大きく受け、十分な診療ができない時期もありましたが近隣医療機関の先生方のお力添えにより減少した手術件数も徐々に回復傾向にあります。

最後になりましたが、胸部異常陰影、気胸、縦隔腫瘍などが疑われる患者さんがいらっしゃいましたら、どうぞご遠慮なく呼吸器外科までご相談、ご紹介ください。安全で質の高い呼吸器外科手術で地域医療に貢献できるよう日々取り組んで参りますので、今後ともご厚誼を賜りますよう何卒お願い申し上げます。

みんなが知りたい病気シリーズ ～膝関節症～

整形外科 佐々木 遼

【病態】

変形性膝関節症は、膝関節における軟骨の変性や損傷が原因で発症する慢性的かつ進行性の疾患です。この病態は主に、軟骨の減少と骨の変化によって特徴づけられます。まず、膝関節の軟骨が徐々に減少します。通常、軟骨は関節の表面を覆っており、摩擦を軽減して滑らかな動きをサポートしています。しかし、変形性膝関節症の場合、この軟骨が摩耗し、割れたりひび割れたりすることがあります。さらに、骨の変化も変形性膝関節症の病態に関与しています。軟骨の減少に伴い、骨同士が直接接触することが増え、これによって骨に異常なストレスがかかります。その結果、骨が変形し、関節周囲の組織に炎症が生じることがあります。これらの変化が進行すると、痛み、腫れ、関節の運動制限などの症状が現れ、生活に影響を与えることがあります。この疾患における治療アプローチは多岐にわたり、患者様の症状や病態に応じた段階的かつ個別化された治療が重要です。

【保存療法】

初期段階では、保存療法が適用されます。体重管理は重要であり、肥満は症状の悪化を招くため、食事管理や運動療法が重要となります。また、物理療法は関節の柔軟性や筋力を向上させ、痛みの緩和と機能の改善を図ります。それらに加えて、鎮痛薬やヒアルロン酸注射により痛みを緩和させ、患者様の生活の質が向上することを目指します。

【手術療法】

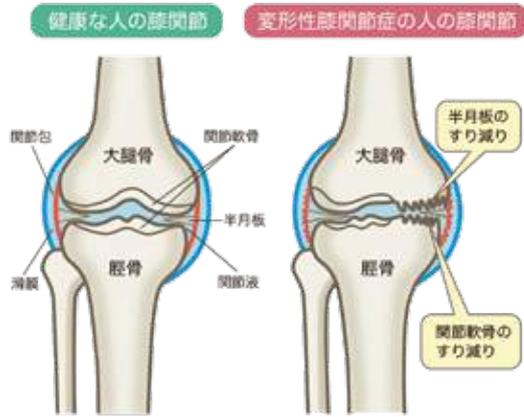
進行した症例においては、手術が必要となります。人工関節置換術は膝関節の摩耗が著しい場合に適用され、摩耗した軟骨表面を切除し、人工関節に置き換えることで、痛みや機能障害を軽減させます。当院では2024年より、ロボットを用いた人工関節置換術も導入しています。スポーツ復帰や、よりアクティブな生活を望む患者様には、骨切り術や半月板縫合（切除）術などが検討されます。個別の状態に応じて最適な手術が選択されます。

【近年の非侵襲的治療法】

手術に至る前段階では、再生医療や神経焼灼術も近年進んでいる非侵襲的治療法です。再生医療は患者自身の組織や細胞（血液や脂肪）を活用して、膝関節の損傷や軟骨の再生を促進することを目指します。一方、神経焼灼術は、痛みを引き起こす神経に焼灼を行い、痛みの感知を抑制します。これらの治療法で症状が緩和できた場合には、手術を回避できる可能性があります。

【当院の取り組み】

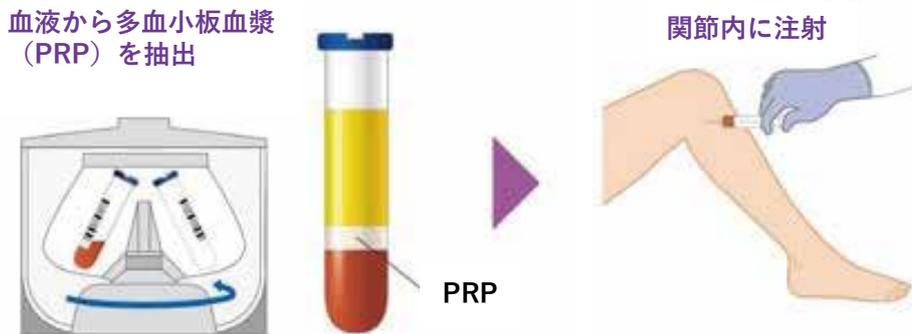
治療の中心は患者様です。まずは、自身の膝の状態を正確に知ることが重要です。また、当院では上記の全ての治療が可能（神経焼灼術は今後導入予定）であり、個々の膝痛に対して、より総合的な治療を目指しています。また、地域の病院と連携することで、変形性膝関節症に対する包括的な医療ケアが提供できることを目指しています。



(図1) 変形性膝関節症



(図2) 人工膝関節置換術



(図3) 血液による再生医療 (多血小板血漿：PRP)



(図4) 脂肪による再生医療 (脂肪由来培養幹細胞治療)

「薬剤部の紹介」

～院外処方箋発行促進について～

薬剤部長 大塚 知信

薬剤部は、調剤、製剤、医薬品管理、無菌製剤調製、医薬品情報管理、病棟薬剤業務はもとより、教育・研修業務や各チーム医療、がん治療センター、救命救急センター、手術室、臨床研究・治験推進室、薬剤師外来、入退院支援センターなど様々な場面や部門に薬剤師が参画し、「患者ケアの向上につながる安全で質の高い医療の提供」に努めています。

また、外来・入院前、入院・退院、在宅支援などの様々な局面で薬剤師が患者支援を推し進める業務を構築し、具体的な対応への展開が更に必要とも考えており、今後も多様化する薬剤業務の変化に対応すべく柔軟性のある体制を整備し、医薬品の適正使用と薬物療法の健全な推進に寄与したいと思います。

近年、マイナ保険証や電子処方箋などの医療DXについて、ニュース番組等で取り上げられる機会が多くなってきました。ペーパーレス化、ビッグデータの活用、医療現場の業務の効率化など様々なメリット/デメリットが報道されていますが、当院でもそれに向けた下地作りとして、「外来受診時のお薬は、原則、院外処方」ということを広く患者さんへご案内したいと考えております。

厚生労働省でもこれからの医療提供体制として「医療分業」を推進しており、1箇所の保険薬局を「かかりつけ薬局」として決めておくことにより、患者さん

は安心してご自身のお薬を使用できるようになります。



【院外処方のメリット】

- ・ 患者さんのことをよく知った薬剤師から、お薬の丁寧な説明を受けられます。
- ・ 複数の医療機関から処方されたお薬の飲み合わせや重複などをチェックしてもらえます。
- ・ お薬の使用履歴、アレルギー歴、副作用歴など、患者さんの様々な情報を管理しているので、処方の内容に疑問点や不都合な点があれば、薬局薬剤師が医療機関の医師へ問い合わせを行い、解決した上でお薬をお渡しします。
- ・ ご使用されているお薬の名前やご使用の履歴の分かる「お薬手帳」が作成されます。

このように、患者さんが「かかりつけ薬局」を決めることは安心で大切なことです。「院外処方箋」はこの保険薬局でも調剤してもらえますので、保険薬局の選定は患者さんの自由です。東京医療センターでは、

院外処方箋専用のファックス送信機を医事カウンターの左側に設置しておりますので、「かかりつけ薬局」の検索や「院外処方箋」の送信にご利用ください。

ダ・ヴィンチの紹介

手術診療部長 石 志紘

ー2023年11月に2台目のダ・ヴィンチが導入されましたー

近年、多くの領域で鏡視下手術が行われています。従来の開腹や開胸手術と比べて鏡視下手術は傷が小さいことによる術後の痛みの軽減、より早い術後の回復、より短い入院期間、より早い社会復帰、そして美容上の美しさなど体に加わる負担が少ない、体に優しい手術と考えられています。

ロボット支援手術はこれら鏡視下手術を専用のロボット支援下に行うものです。従来の鏡視下手術で用いられる細長い棒状鉗子の欠点をロボット制御下に多関節を持つ鉗子で補うことによりその利点をさらに向上させることができ、具体的には実際の手の動きが鉗子に反映されるような直感的な操作が可能で、より複雑で細やかな手術手技が可能となります。また、高機能なカメラも備えていることから3次元による正確で精細な画像情報を得られるため、より安全かつ侵襲の少ない手術が可能となり、次世代手術の一端を担う分野と考えられています。現時点では保険診療の対象となる疾患、手術に関してはまだまだ限られています。

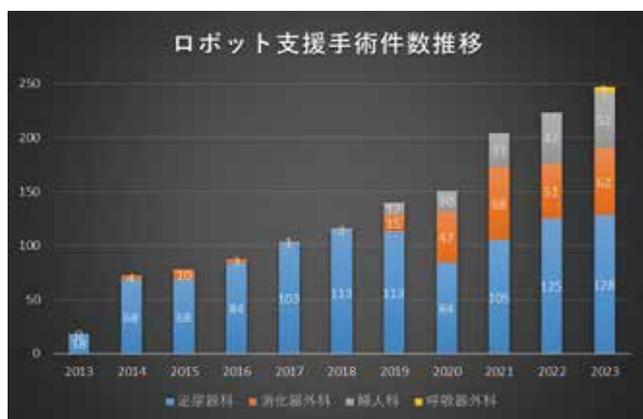
将来的には益々増えていくことが予想されています。

当院のロボット支援手術は2013年9月に米国INTUITIVE社製の「da Vinci (ダ・ヴィンチ) Si Surgical System」を導入したことから始まり、対象疾患、手術の増加に伴い2023年11月にはより高性能な現行機種である「da Vinci Xi Surgical System」を追加導入、現在は2台体制で泌尿器科領域では前立腺がん、腎臓がん、尿管がん、膀胱がん、腎盂形成、消化器外科領域では直腸がん、結腸がん、胃がん、膵がん、婦人科領域では子宮体がん、子宮脱、呼吸器外科領域では肺がん、縦隔腫瘍などに対してダ・ヴィンチによる手術を積極的に実施しており、年々件数も増加しています。実際の執刀は、INTUITIVE社による認定ライセンスを受けた各診療科の医師が行っています。また、看護師においてもトレーニングを受けている看護師が介助を行っています。

ロボット支援手術に関するご相談を各診療科で受け付けておりますので、お気軽にお声かけください。

da Vinci Xi Surgical Systemの写真

ロボット支援手術の累積件数



能登半島地震におけるNHO医療班の派遣について

庶務班長 上後 剛範

能登半島にて令和6年元旦に発生した最大震度7の地震における支援として、1月6日（土）に当院から医療班5名を派遣しました。派遣者は太田慧医師、穂本さくら看護師、原田夏子看護師、小松崎祥薬剤師、私で朝9時40分に病院を出発し、NHO現地対策本部のある金沢医療センターに17時30分に到着しました。NHO現地対策本部の犬伏課長より、明朝に災害医療センターの医療班とともに輪島市役所へ向けて出発し、輪島市内の避難所のアセスメントをして欲しいと指示を受けました。また、「NHO医療班 輪島」のLINEグループを作成し、NHO本部や同行する医療班、今後派遣予定の他のNHO病院医療班とも逐一情報を共有するようにしました。

2日目は災害医療センター医療班とともに朝7時に輪島市役所へ向け出発。移動中、至る所で道路のひび割れ、崖崩れによる巨大な岩や倒壊している建物を目の当たりにし、被害の甚大さを改めて感じながら11時40分に輪島市役所へ到着しました。

輪島市役所では自衛隊、DMAT、日赤救護班などが既に活動しており、当院は市役所内の輪島市保健医療福祉調整本部に医療班登録をし、調整本部の避難所班にぶら下がる形でNHO医療班としての組織図を策定しました。

そして、輪島市保健医療福祉調整本部内DMAT指揮より、電話不通の福祉施設の現状確認依頼を受け全員無事を確認、輪島高校避難所（指定避難所）で1人の発熱患者を診療し災害処方箋を処方、石川県奥能登

土木総合事務所（自主避難所）で2名を診療し、うち1名を福祉避難所へ移動することを調整本部に上申したりなどして2日目の活動を終わりました。

3日目は医師と看護師1名が自衛隊車両で孤立集落への巡回診療、避難所スクリーニング等を行い、看護師1名と薬剤師、私は保健医療福祉調整本部にてロジ活動（それぞれクロノロ、感染症担当、避難所担当）を行い、市立輪島病院への妊婦搬送や夕方に後続で到着した三重病院と長良医療センターの医療班に引き継ぎを行いました。

4日目は前日同様に巡回診療と本部のロジ活動後、調整本部への活動報告や後続隊への申し送りをを行い、13時頃に現場活動を終え市役所を撤収しました。その後、金沢医療センターでNHO本部とWEB会議にて輪島市内の現状報告や意見交換を行い、5日目の1月10日17時頃帰院しました。

派遣を通じて感じたことは、避難所担当としてJSPEED（災害時診療概況報告システム）やD24H（災害時保健医療福祉活動情報支援システム）を初めて使用したこともあり、事前に研修等で操作方法の確認をしておけばよかったと思いました。

また、NHO現地対策拠点含め本部活動を担える人材の育成が必要と感じました。

最後に今回の地震により、亡くなられた方々に謹んでお悔やみ申し上げます。そして、被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地の1日も早い復興を願っております。



崖崩れの岩



倒壊したビル



ロジ活動の様子



後続班へ申し送りを行う太田医師

就職説明会を開催しました

外来看護師長 佐藤 三千世

本年1月10日（水）13：30～15：00東京医療保健大学東ヶ丘看護学部の3年生を対象に、国立病院機構東京医療センターの就職説明会を開催しました。

当日の就職説明会の進行は、前半は、当院の概況、看護部の理念、教育体制、福利厚生について説明を行いました。後半は、病棟ブース（内科系、外科系、小児科、産婦人科）や手術室等のブースを設置し、学生が主体的に興味のある病棟や手術室等のブースに分かれて、病棟の特徴や看護の実際について説明を受けました。自部署の特徴についての説明は、各科のスタッフが担当しました。病棟の説明を行った看護師の中には、同大学の卒業生もおり、学生は先輩のプレゼンテーションを熱心に聞き、時にはブースから笑い声が漏れていました。また手術室のブースでは、実際に使用している手術器具の名称や使用用途について説明が

あり、学生が手術器具に触れる体験もありました。学生は、緊張しながらも、初めて手術器具を手に取り、思い思いに感想を述べていました。活発な意見交換もあり、和やかな雰囲気の中、就職説明会を終えました。

2010年に東京医療センターの隣接地に東京医療保健大学東ヶ丘看護学部が設置されて以来、今日まで多くの卒業生が当院に就職し、活躍をしています。2023年に就職した新人看護師も順調に看護師として成長を続けています。今後も、先に活躍をしている先輩看護師に続き、東京医療センター看護の中核を担ってほしいと願っています。

最後になりましたが、日頃、患者の皆様には、看護学生の臨地実習にご協力をいただきありがとうございます。来年4月、新人として入職した際には、どうぞ宜しくお願い申し上げます。



全体説明会



各病棟の雰囲気が伝わるように病棟から持参した、ポジティブの木を掲示しました、（ポジティブの木は、日頃の感謝を付箋に書いて貼っています）



産婦人科（5A病棟）沐浴の実際



手術室
手術器具が入った箱（コンテナ）



外科（6A病棟）
頭部冷却療法を説明

オータムコンサート

庶務係 江成 柚香

11月14日（火）に外来ホールにてオータムコンサートを開催しました。東京音楽大学ACT Projectエリアコンサートチームより折本智英美さんと久野真理愛さんをお招きしてヴァイオリンとピアノの音楽を鑑賞しました。このコンサートは平成25年から目黒パーシモンホールと共同で実施しており、地域住民のみなさまが実演芸術に親しむ機会を提供することを目的としています。昨今のコロナウイルス感染症の影響で2019年以來、4年ぶり8回目の開催となりました。ドヴォルザーク作曲の「ユーモレスク」などクラシックを中心に全7曲を演奏していただきました。演奏の間には次に演奏する曲目の紹介をしていただき、1時間があ

という間に感じた方が多いのではないのでしょうか。入院中の方にもお集まりいただき、外来ホールに響く心地よい演奏に聴き入る様子がうかがえました。コンサート終演後には来年も開催を期待するお声をいただきました。病院へ来られる方への心安らぐ鑑賞の時間として、引き続き開催できればと思います。



クリスマス装飾

庶務係 江成 柚香

当院では毎年、クリスマスが近くなると外来ホールのブラインドを利用したイルミネーションと鉄道レイアウトのクリスマスの装飾を設置しています。今年は12月4日（月）から12月25日（月）まで設置しました。クリスマスツリーの他にプレゼント箱やジャズバンドの置物等の飾りが数多くあるので、配置を話し合いながら協力して準備を進めました。昨年よりも人形やぬいぐるみを多く並べたのでかわいらしさが増したのではないのでしょうか。毎年恒例になっているクリスマスレイアウトを楽しみにされている方は多く、いつから装飾が始まるのかというお問い合わせもいただきました。こども達が動く鉄道に興味津々で鑑賞しており、

準備した者として嬉しく思いました。日が落ちるとブラインドに装飾したイルミネーションが輝き、写真や動画を撮影する方をお見かけしました。冬の訪れを感じていただくと共に、癒やしの一助になればと存じます。今後も当院へ来院される方へ憩いの時間を提供できるように継続していきたいと感じました。



第18回MOA美術館目黒区児童作品巡回展

庶務係 江成 柚香

1月16日（火）から1月30日（火）までの間、「第18回MOA美術館目黒区児童作品巡回展」として外来ホールにこども達の作品が展示されました。当作品展は美育活動の一環として学習指導要領に基づき、こども達が自然・環境・社会との関わりを通して興味や関心を持ち、感性を動かすことを目的に開催しています。第18回の本年は目黒区内の公立小学校20校、そして絵画や書写の各教室から作品総数140点の応募がありました。巡回展示では、「目黒区長賞」や「目黒区議会議長賞」などの受賞作品15品が展示されました。一昨年より新設された「東京医療センター賞」では晴れた空の下で遊ぶこどもの姿が描かれた作品が選ばれています。作品の色使いやデザインを見て小学生が描いた

ことに驚かれ、じっくり細部まで鑑賞する方が多く見受けられました。作品をご覧になった方の感想用紙には「素晴らしい作品でした」「心の思いのままどんどん描いてください」などこども達に向けての思いが書かれていました。感想用紙は後日MOA美術館から教育委員会とこども達に送られるそうです。地域のこども達との繋がりを大切に、これからも作品展示を続けていければと思います。



患者図書室からのお知らせ

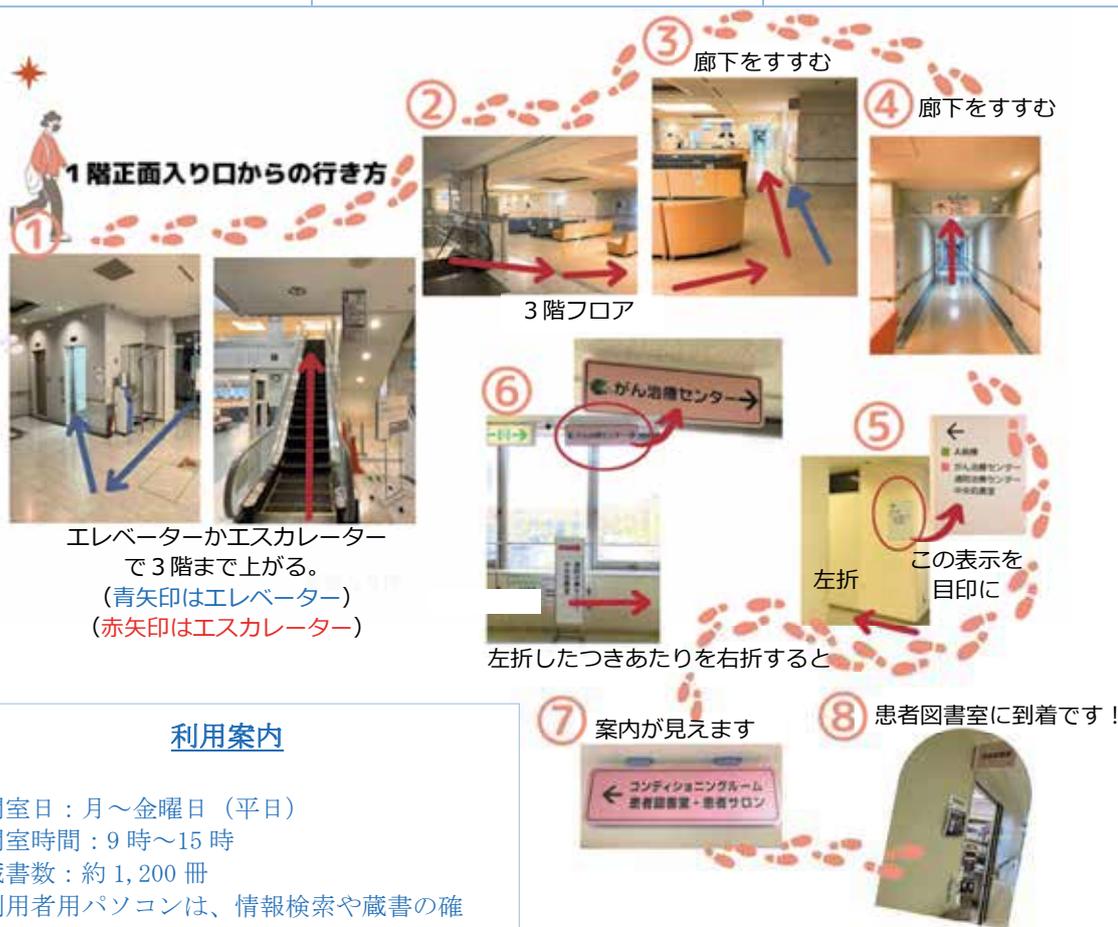
～新着図書のご案内～

患者さん向けの本をご用意しています

患者図書室でお選びになった本は、がん治療センター内（病棟 3 階 B フロア）でしたら、ご自由にお持ちいただけます。読み終わりました本は、返却 BOX（図書室・受付前待合に設置）へお願いします。診察の待ち時間などに、是非ご利用ください。

▼2023 年度の新着図書（一部）

	<p>『これからのヘルスリテラシー：健康を決める力』</p> <p>講談社 2023 年 A:医学全般:10934</p>		<p>『患者・市民のための膵がん診療ガイド 2023 年版』</p> <p>金原出版 2023 年 Fs:肝胆膵:10925</p>		<p>『患者さんとご家族のための子宮頸がん・子宮体がん・卵巣がん治療ガイドライン』第3版</p> <p>金原出版 2023 年 Ga:女性のがん：10923</p>
<p>よりよい意思決定のために信頼できる情報を手に入れるには？ソーシャルメディア（SNS）や新型コロナウイルスなどについても解説。</p>		<p>膵がん診療に携わる医師、患者団体・市民の代表の方々により、遺伝子・バイオマーカーなどの最新情報や用語集も入れるなど全面的に改訂。</p>		<p>アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の実践の中で直面しやすい経済的な課題と、その課題への対応に役立つ制度について解説。</p>	



利用案内

- ・開室日：月～金曜日（平日）
- ・開室時間：9時～15時
- ・蔵書数：約1,200冊
- ・利用者用パソコンは、情報検索や蔵書の確認、図書室内のDVD視聴等にご利用いただけます。
- ・ご利用にあたってはマスク着用・手指衛生をお願いしております。

患者図書室ホームページ



地域医療連携室からのお知らせ

地域医療連携室長 鄭 東孝 地域医療連携係長 清水 裕子

平素より東京医療センターの診療に対し、ご支援並びにご指導を賜り、厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症が流行して以来、当院では発熱外来を開設し、26,000人余りの患者さんの対応をしてきました。このたび5類移行に伴い発熱外来を閉鎖致しましたことをご報告申し上げます。今後外来受診につきましては、発熱などの有無にかかわらず受診していただくことが可能になります。ただし、入院前の発熱・症状がある場合には、PCR検査が必要であることは変更ありませんのでご了承ください。

11月・1月に地域医療カンファレンス地域医療カンファレンスを実施いたしましたので、ご報告させていただきます。

【第149回 地域医療カンファレンス】

■日程 2023年11月30日（木）

■演題

「診断エラー～原因となる認知バイアスと医療者間コミュニケーションの改善方法について～」

総合内科副医長 山田康博（やまだやすひろ）

■参加者 21名

医療の現場において大きな問題である「診断エラー」とその防止に不可欠なチーム間のコミュニケーション TeamSTEPPS (Team Strategies and Tools to Enhance Performance and Patient Safety) の重要性についてお話させていただきました。



【第150回 地域医療カンファレンス】

■日程 2024年1月25日（木）

■演題

「人工関節・再生医療センターの取り組み－合併症の低減と患者満足度の向上－」

整形外科医長 人工関節・再生医療センター長 藤田貴也（ふじたよしなり）

■参加者 11名

当院の整形外科 人工関節センターにて行っております人工関節手術・再生医療など最新の医療についてお話させていただきました。普段から交流のある地域の先生方と当院で治療にかかわるスタッフたちが対面でごあいさつする機会もあり、今後の連携に有益な機会となりました。



フォトコーナー

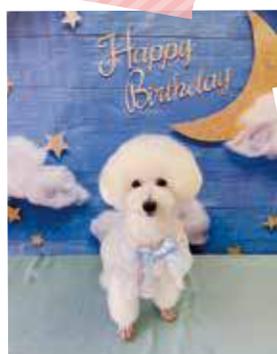
今回は、東京医療センターに勤める事務職員の愛犬たちをご紹介します。



事務部 I



事務部 S



事務部 S



事務部 U

登録医紹介



院長あいさつ

一般/美容診療、ともに患者さんお一人おひとりに最適な治療を行うためにもっとも必要なのは情報です。そのためには信頼していただけなければなりません。私たちは常に患者さんに寄り添った対応を心がけています。

一般診療は内科・泌尿器科です。患者さんそれぞれの生活環境に最適な治療方法の提案はもちろんクサリの院内処方にもこだわり続けています。一貫した患者さん本意の医療の提供、これが五本木クリニックの基本です。

美容診療は完全予約制で美容皮膚科・美容外科がございます。一番大切にしているのはカウンセリングです。カウンセリング・診察・術後検診は無料でっております。まずはお気軽にご相談ください。



院長
桑満おさむ



診療科・医院案内

一般診療 / 泌尿器科 内科 美容診療 / 美容皮膚科 美容外科

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:30~12:30	●	●	●	—	●	●	—
15:00~18:30	●	●	●	—	●	—	—

休診日：木曜・土曜午後・日曜・祝日

〒152-0001

東京都目黒区中央町2-18-14

☎ 一般診療 (泌尿器科・内科)

03-5721-7000

美容診療 (美容皮膚科・美容外科) 03-5721-7015

<https://www.gohongi-clinic.com/>



大和内科・消化器内科クリニック

院長あいさつ

地域の皆様の家庭医（総合内科医）としての役割と、消化器内科の専門医としての役割を果たしたいと考えています。家庭医としては、一般的な疾患に対して質の高い診療を行うと同時に、'元気で長生き'をめざして病気や老化の予防にも取り組みたいです。

また消化器内科医としては、長年の経験を生かした消化器疾患の専門的診療や、最新の機器による胃・大腸の内視鏡検査を行います。

よろしくお願い申し上げます。



院長
大和 滋



診療科・医院案内

内科 (総合内科) 消化器内科 内視鏡内科

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:30	●	●	●	—	●	●	—
15:00~18:30	●	●	●	—	●	△	—

休診日：木曜・日曜・祝日 △土曜午後：15:00~17:00

〒158-0083

東京都世田谷区奥沢3-35-5

☎ 03-3727-5100

<https://www.yamatoclinic.com/>

